

横浜市の水源

横浜市の保有水源は、
道志川系統 相模湖系統
馬入川系統 企業団酒匂川系統
企業団相模川系統 の5系統で、
合わせて
1日 1,955,700m³

道志川系統

172,800m³/日

相模川の支流である道志川の河川水を水源としています。鮎子取水せきで取水し、青山沈でん池を経て、自然流下で川井・西谷の両浄水場へ送られます。

相模湖系統

394,000m³/日

相模川の上流にある相模湖(相模ダム)の水を水源としています。相模湖の約4km下流にある沼本ダムで取水し、津久井分水池、下九沢分水池、相模原沈でん池および川井接合弁を経て、自然流下で鶴ヶ峰・西谷の両浄水場へ送られます。

馬入川系統

224,700m³/日

相模川の上流にある津久井湖(城山ダム)の水を水源としています。津久井湖の約32km下流にある寒川取水せきで取水し、ポンプを使って小雀浄水場へ送られます。

企業団酒匂川系統

605,200m³/日

神奈川県内広域水道企業団(13頁参照)が取水から浄水処理までを行うもので、酒匂川の上流にある丹沢湖(三保ダム)の水を水源としています。丹沢湖の約28km下流にある飯泉取水せきで1日1,564,300m³(そのうち横浜市分は上記のとおり)取水し、^(注)伊勢原・^(注)相模原等の浄水場へ送られます。

企業団相模川系統

499,000m³/日

神奈川県内広域水道企業団が取水から浄水処理までを行うもので、相模川の支流である中津川上流の宮ヶ瀬湖(宮ヶ瀬ダム)の水を水源としています。宮ヶ瀬湖の約23km下流にある相模川の相模大せきなどで1日1,300,000m³(そのうち横浜市分は上記のとおり)取水し、^(注)綾瀬・^(注)相模原等の浄水場へ送られます。



●水源では



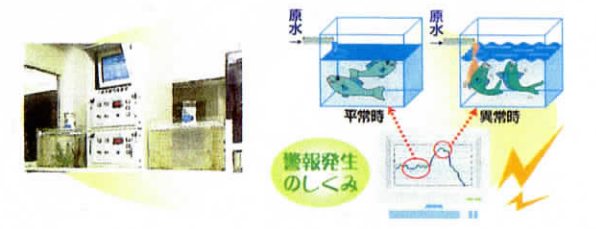
水源での検査

定期的に採水し、理化学試験や生物・細菌試験を行い、水源水質を監視しています。



自動水質監視システム

水道局では、河川などから取り入れた水(原水)に毒物が混入した場合、魚類等の異常な行動をセンサーが感知し、警報を発する自動水質監視システムを採用しています。



- 各水源の主な給水区域
- 相模湖系統の水
 - 馬入川系統と企業団相模川系統の水
 - 企業団酒匂川系統の水
 - 道志川系統と企業団酒匂川系統の水
 - 道志川系統と相模湖系統の水
 - 馬入川系統と企業団酒匂川系統の水
 - 企業団相模川系統の水
 - 横浜市水道局の浄水場
 - 企業団の浄水場(注)
 - 配水池

(注) 伊勢原・相模原・西長沢・綾瀬の4つの浄水場は神奈川県内広域水道企業団の浄水場です。ここでつくられた水道水は、横浜市や川崎市などへ送られます。(神奈川県内広域水道企業団については13頁参照)